

平田亮一

ほのほの聴診

レキオに綴ったメデイカルエッセー

100話



平田亮

ほのぼの聴診100話

レキオに綴ったメデイカルエッセー

平田亮一（ひらた りょういち）

泉崎病院顧問（内科医）。週刊レキオにメデイカルエッセーを一九八七年から連載中。一九三五年沖縄県首里生まれ、佐敷町出身。一九六二年広島大学医学部を卒業、広島大学第二内科、愛媛県八幡浜市立総合病院、愛媛県立南宇和病院を経て一九七六年現病院に勤務。副院長、院長をつとめ、一九九五年から現職。

著書に「平田亮一のメデイカルエッセー」（週刊レキオ社）、「ドクターのカルテ六輔の診察券」（共著・扶桑社）、「平田医師と永六輔の生き方講座」（三笠書房）、「沖縄・医の風景」（ひるぎ社）がある。

一九九七年十一月十五日 第一刷

著者——平田 亮一

発行——週刊レキオ社

〒900 那覇市西一の四の八
ROKビル五階

☎〇九八・八六五・五二九一

発売——琉球新報社

〒900 那覇市泉崎一の十の三
☎〇九八・八六五・五二〇〇
（出版事業部）

印刷——株新報出版

©RYOICHI HIRATA 1997 Printed in Japan
ISBN4-89742-010-5 C0095

落し・乱しはお取り替えます

平田亮
ほのぼの

レキセに綴ったメデイカルエッセー

江の工業学院図書館
聴蔵書章

100話

ほのぼの聴診100話 目次

思春期内科 9

オバアと共に 25

今どき症候群 シンドローム 59

医者物語 93

医療話チャンプルー 135

健康の広場 191

I 思春期内科

歩け少女たち	10
美少女しぐれ	12
鉄美少女K	14
何百のひとみ	16
甘い十九のブルース	18
あいさつ小話	20
パンプキンケーキ	22

II オバアと共に

続・おばあ名語録	26
続・続おばあ名語録	29
燃える薬	32

III 今どき症候群

シンドローム

「おもらし」チエック	34
おばあ用語	36
またまたおばあ名語録	39
夢で会いましょう	42
触られて：	44
慢性の人	46
アンネが咲いた	48
夏がまた来て	50
二面相	52
逢いたかったよ	54
忘年珍答集	56
タバコのある風景	60
二号からの手紙	62

青いドレスの女	64
義理チヨコのゆくえ	66
鈴の鳴る家	68
ぼくの細道	70
ガンの告知	72
コメキトク	74
シクラメンの人	76
水虫こぼれ話	78
「H」話	80
ノーメル賞	82
愛の告白よりも：	84
目撃	86
おなら談義	88
青春の休日	90

IV 医者物語

白衣の天使へ	94
もつと映画を	96
聴診器をもった渡り鳥	98
反省ドクター	100
曼珠沙華 まんじゅしやけ	102
銭形ヘーじ	104
北からの珍客	106
ポケベルが鳴りすぎて	108
吾輩は医者である	110
俳句の街で	112
女医さんの嘆き	114
時には声を大にして	117
検診風景	120

V 医療話チャンプルー

ブラジャーこぼれ話	122	電話診療	150
あわやセクハラ	124	フェイス・スケール	153
桜	126	晩秋の喫茶店で	156
オムツしました	128	ほんのり桜色	158
水虫さままま	130	フカンシヨウ	160
ホクロ往珍	132	七月は更年期？	162
		夏、OLを診たら：	164
		日傘さしたや	166
		ズキンズキン物語	168
「キス病」の秋	136	神戸の人	170
鏡もち事件	138	胡弓情歌	172
ヘアと共に撮りぬ	140	時には寅さん風に	175
白い花の咲くころ	142	ガールフレンド	178
小銭ハンティング	144	エロムシ	180
ほくろの夜	146	自立は男の泣きどころ	182
ムーン・フェイス	148	ごめんなさい	184

VI 健康の広場

エッセーこぼれ話	186	昼寝のすすめ	224
心ゆさぶられた手紙	188	美人病	227
		お馬鹿さん	230
		だるい秋	233
		家族トラブル病	236
地震のように	192	ピロリ時代	239
普通のこと	195	ヘップバーンと共に	242
時には主夫に	197	貴婦人の寝室	245
家庭内糖尿病	200		
夏にご用心	203		
ヘア外来	206		
仮面うつ病	209		
静かなる殺人者	212		
家庭内休肝月	215		
オリンピック肺炎	218		
カビ注意報	221		

イラスト・安室 二三雄
レイアウト・安里 恵子

I 思 春 期 内 科

歩け少女たち

サルスベリが芽を吹き出した。その下では、桜の幼木の若葉とさんしょうの小さな花がひっそりとたたずんでいる。ガーベラ、ナデシコ、パンジー、スミレ、ツツジ、椿、コスモスも目を楽しませてくれるけれど、春を感じさせるのは、サルスベリのうすい赤と緑が点じた芽と、桜やさんしょうのかわいい姿だ。やわらいだ陽の光の中の木々の芽は、いくつになっても自然の妙を感じさせ、生きることの有り難さを教えてくれる。

植物が芽吹き生長する春は、子供たちの背が伸びる季節だ。それだけに、春には多くの栄養が必要である。ビタミン、カルシウム、タンパク質の補給を第一に考えねばなるまい。それらを補う手近なもの、野菜、海藻類、小魚、牛乳だが、今の世の中、足りているようで足りてないのがビタミンである。ビタミンA（有色野菜、緑の海藻類が供給源）やビタミンC（パパイア、マンゴー、キウイといったトロピカルフルーツ、ミカン、イチゴ、イモに多く含まれている）は、貧血を防ぎ、腸内で有害物質が

できるのを抑え、目の粘膜を守って肌を美しくする効果があるのに、「今の女子大生の中には、ビタミンCは多くとっているけど、ビタミンAはほとんどとっていない人が多い」というデータもある。

背が伸びる思春期は、美容にとっても興味をもち始める時期だ。そのころ、少女たちの中には、ほほや手の肌がかさかさに荒れる人がいる。それはビタミンEの減少が原因といわれている。女性ホルモンをつくるにはビタミンEが必要で、急に多量のホルモンをつくり始める思春期では、まだ製造機能がスムーズに働いてくれないために、ビタミンEのむだづかいが起ると考えられている。ビタミンEは大豆、卵、牛乳、サツマイモ、ゴマ、スイカやカボチャの種に多く含まれているが、揚げスナックはビタミンEを減らすのに一役買っていることも忘れてはなるまい。

明日はひな祭。女房のふるさと（愛媛県の城辺町）では、三月三日は毛遊びならぬ山遊びの日で、その翌日は海遊びの日だったが、「女の子をきれいに育てるには、とくに脚線美の少女にしたいなら、せいぜい歩かせることだ。だから、明日は山へ、明後日は海につれて行きなさい」というのが小児科の口癖だった。

幸い、三日、四日は週末だ。野道でもさまよって、タンポポでの草ひな作りやスミレの花相撲を楽しんだらどうだろう。

（1990年3月2日）

美少女しぐれ

女子高生が「かぜをひいた」と訴えて受診した。

「原因は寝冷えかな」

「違います。雨に濡れたんです。街を歩いていたら、急に雨が降ってきたんです」

「じゃあ、その雨は美少女しぐれだ」

少女がともうれしそうに微笑んだので、診察をそっちのけにして、私は今とばかり質問した。

「昔と違って、このごろの若い人は雨に濡れながら平気で歩くけどどうしてでしょう」

「みんながそうするからじゃないですか。うちのおばあちゃんは、アメリカ世（やう）になつたからと言っていますけど」

「濡れたからだ、学校でどうしているの」

「タオルもっていますから、まず髪をふいて、からだもふいたりして、そのうち乾くのを待ちます」

その後、診察したが、異常所見は特にない。イガイガするといふのどもきれいだ。

「のども、扁桃腺も異常ありません。肺の音もきれいです。でも、たんが黄色いということは、気管支炎をおこしている証拠だから、抗生物質、ばい菌を殺す薬を出しましょうね。錠剤がせき止めで、カプセルが抗生物質です。四日分出しておきます。熱が出たとか症状に変化があれば、薬はまだ残っていても、来てくださいよ」

「あのう：母が点滴もしてもらっておいで、と言っていましたけど」

「食欲はあるんだから、点滴は要りません。点滴といつても、水と糖分だから。おいしいものを食べて早く寝なさい。それがかぜを早く治すコツです」

彼女のような「のどのイガイガ感」や「のどに虫がいる感じ」「のどに何かがつまっている感じ」は、のどの炎症、扁桃炎のほか、食道ガン、食道炎、胃・十二指腸カイヨウ、甲状腺の病気でもおこる。また、心の病気の症状である場合も多い。女子高生はその後は来院してないので、彼女の「のどのイガイガ」は、かぜによるものだったのだろう。「濡れてゆく若さも街の風物詩」

美少女しぐれには風情があるので、私はその情景が好きだ。でも、医者立場でいうと、美少女しぐれも、オバタリアン、マドンナしぐれも、おばあしぐれも、要注意である。

(1994年11月11日)

鉄美少女K

学校の夏休み期間中には、健康診断でひっかった人が、精密検査や治療を受けに訪れることが多い。

高校二年生のKさんもその一人で、学校からの書類をみると、ヘモグロビンが十・三で要治療となっている。上腹部の痛み、胸やけはないか、今まで真っ黒い便が出たことはないかと聞くと、そんなことはないという。生理の量も多くな、偏食もないと、てきばきと答える。

「いろいろ聞いたのも、胃の病気、生理との関係、食物の好き嫌いで貧血になることがあるからんだけど、まずは診察しましょう」

ブラもゆるめてもらってちゃんと診たが、貧血に伴う心雑音もなく、もちろん子宮筋しゅの所見もない。一時間後に分かった検査データでは、典型的な鉄分欠乏性貧血だ。

「あなたの貧血は、成長に伴う貧血です。成長期には血液の量も増えるんで、その材

料である鉄分がより多く食物から補給されないといけないけど、それがうまくいかず、貧血を来しているのです。血をつくる材料の鉄分が十二で、正常は五十―二百ですから、かなり少ないようです」

食物で鉄を補給するのは無理な状態なので、くすりを使いましょうと告げたら、くすりを飲んだら吐き気がして治療をやめてしまった友だちの話を始めた。

「人によってはそういうこともあります。でもこのごろのくすりは、胃を刺激したり、お茶を控えないといけないなんてことはないのです、まず安心して飲んでください」それから一カ月後に彼女は来院したが、くすりで吐き気はないという。ほほはほんのりピンク色になり、より美少女になっている。

「検査では、ほぼ正常になっているけど、ここでくすりをやめると逆もどりのので、もう一カ月飲んで鉄分をためましょう。そうすると、もっと美人になるからね」

「分かりました。先生、うちのおかあさん、私のこと、鉄女というんです」

「鉄女ねえ。カルテ上は、頭文字をとって鉄美少女Kということにしましょう」

美少女と言ったときの、うれしさを隠さない素直なしぐさと、少女とは思えないほどはなやかに開いていた口唇が目に浮かぶ。

(1995年9月8日)